

## 研究機関で雇用する特別研究員-PD等の育成方針

医薬基盤・健康・栄養研究所では、創る、挑む、かなえる～健康長寿の社会を目指して～を研究所の理念としており、特別研究員-PD等の育成方針として、次に示す取り組みを行っている。

### 1. 研究環境の確保・充実

医薬基盤・健康・栄養研究所は、平成27年度に独立行政法人医薬基盤研究所と国立健康・栄養研究所との統合によって生まれた研究所として、現在では「難病・免疫ゲノム研究センター」、「ヘルス・メディカル微生物研究センター」、「創薬デザイン研究センター」、「AI健康・医薬研究センター」、「霊長類医科学研究センター」、「薬用植物資源研究センター」、「創薬資源研究支援センター」による7センター体制を構築しており、国立研究開発法人として様々な研究機会を提供できるような体制を整えている。また、令和4年度には、東京にあった国立健康・栄養研究所が、大阪府の健都（吹田市・摂津市）に移転し、両研究所が地域と連携を深めており、健康寿命を延ばすプロジェクトに取り組む基盤が整っている。その上で、令和4年度よりスタートした第2期中長期計画（7年間）では、「人生100年時代」を見据えた諸課題に取り組んでおり、その1つのキーワードになるのが「個別最適化」と考えている。食事や運動を通じた健康維持・増進においても、病気となった場合の治療法においても、個人に最適な指導と医療の提供が行えることが、これからの時代には求められるため、先端的AI解析技術を創薬や栄養学などに活用し、これらの研究をさらに加速させ、社会還元につなげたいと考えている。これに加え、医薬基盤・健康・栄養研究所は一つの法人として研究所統合のメリットを最大限に活かすため、医薬分野と健康・栄養分野の融合領域にもさらに力を注いでいる。融合領域においては、腸内細菌研究などで新たな可能性を拓くことができつつある。

今後も革新的な医薬品開発のための基盤技術の開発、食と栄養に関する調査研究、自由な発想に基づく基礎的研究などを通して、健康長寿の延伸に貢献できるような研究環境を整備していく。これらの環境を生かして、これからの本邦における研究の未来を背負って立つ特別研究員-PD等の創造性を引き出すことができるように、常に充実した研究環境の提供を心がけて人材育成を行なっていく。

### 2. 能力開発支援

医薬基盤・健康・栄養研究所では、研究所の基本方針を踏まえ、特別研究員-PD等の個々の特性や研究の方向性に合わせて人材教育ができるように、各プロジェクトにおいて専門知識と研究スキルの向上を支援している。研究所内に高度解析装置やバイオインフォマティクス解析ツールなどを多数揃えており、特別研究員-PD等が先端的な研究を行うための環境を

整えている。加えて、豊富なデータベースや文献資料にアクセスできるような仕組みを構築し、研究の幅広い領域において情報共有と共同研究を促進している。

また、研究所外からも著名な研究者を定期的に招き、セミナー等を開催することにより、特別研究員・PD等の学術的な成長を促進している。さらに、特別研究員・PD等自身の学会発表や論文執筆のサポート、研究資金獲得のための指導など、キャリアの発展に必要なスキル向上を図る。また、所内研究助成として若手研究者を支援する取り組みを行っており、特別研究員・PD等が独自で研究テーマを設定しての応募・研究遂行をサポートする。

### 3. 産学連携と実用化

医薬基盤・健康・栄養研究所では、創薬研究における非臨床・臨床試験をつなぐためのトランスレーショナル、リバーストランスレーショナルな研究視点に基づく研究開発推進を重要視しており、産業界や医療機関との連携に関して研究所をあげて積極的に推進している。

具体的には、2つの大阪府立病院、大阪国際がんセンターと大阪母子医療センターと包括的に連携することによって、患者・医療機関・研究所が一緒になって、今は治らない病気を治すことができる病気にするための取り組みを開始している。このように国の研究機関としての存在意義に立ち、民間企業が取り組みにくい難治性疾患・希少疾患を対象にした研究開発を医薬基盤・健康・栄養研究所は重点領域の1つとしている。

また、世界最高水準の医療の提供に寄与する革新的な医薬品等の開発に資するよう、医薬品等に係る基盤的技術の研究及び生物資源に係る研究並びにそれらの成果等も活用した創薬等支援を進めている。加えて科学的根拠に基づいた健康・栄養政策の立案及び誰一人取り残さない対策に必要な研究を推進することにより、国民の健康寿命の延伸・健康格差解消に貢献する。加えて、本研究所の特性を活かし「医薬品等に関する専門性」（メディカルサイエンス）と「栄養・食生活及び身体活動等に関する専門性」（ヘルスサイエンス）を融合した研究を一層促進し、国民の健康の保持増進に資する研究成果の創出に努めている。

このような環境において、特別研究員・PD等には、産業界や医療機関との共同研究プロジェクトへの参加や技術移転の機会を提供し、研究成果の実用化に取り組むことを奨励する。産業界との連携により、特別研究員・PD等は実際の産業界のニーズや課題に直面し、それらを解決するための実践的な能力を獲得することが期待される。さらに研究成果の実用化を追求することで、理論的な知識だけでなく、実際の現場での問題解決能力や応用力が養われる。また、医療機関との連携により、特別研究員・PD等はリアルな医療現場での経験を得ることができる。臨床医や医療スタッフとの共同研究を通じて、疾患の実態や患者のニーズを直接理解し、研究の方向性やアプローチをより実践的かつ実用的に展開できるように成長することが期待される。

### 4. 女性研究者育成の強化

医薬基盤・健康・栄養研究所は文部科学省が実施する科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」（平成28～令和3年度 代表機関：大阪大学）のもと、研究環境のダイバーシティを高め、優れた研究成果の創出につなげるため、

女性研究者のライフイベントやワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備、女性研究者の積極採用、上位職への積極登用などの取り組みを行なっている。

とりわけ、特別研究員・PD 等はライフイベントの多い世代でもあることから、これらを考慮した上で女性研究者の育成を図っていく。

以上 4 つの大きな柱をもとにした育成方針に則って、国内外で活躍する優れた研究者の育成を実現し、学術研究の将来に貢献する。